

様式第4号(第15条関係)

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 平成29年度第2回美里町政策推進・評価委員会
- 2 開催日時 平成29年8月4日(金)午前9時から午前10時20分まで
- 3 開催場所 宮城大学大和キャンパス 401会議室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員
徳永幸之会長 高力美由紀副会長 大塚真理子委員 佐々木秀之委員
 - (2) 事務局
企画財政課 課長 佐々木義則 課長補佐 小野英樹
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
 - (1) 議題
議事録の署名人及び書記の選任について
地方創生関連事業の評価について
次回会議の開催について
その他
 - (2) 会議の公開・非公開の別
公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数
0人
- 8 会議資料
別紙のとおり
- 9 会議の概要
 - (1) 議事録署名人及び書記について
議事録署名人は徳永会長及び高力副会長、書記は事務局とする。

(2) 地方創生関連事業の評価について

報告書について委員会で確認した内容に基づき一部修正することとし、修正内容については、会長一任とする。修正期限は、平成29年8月10日までとする。

(3) 次回以降の会議の開催日程について

第3回委員会 平成29年9月25日(月)午後0時50分から午後2時まで
会場 宮城大学

(4) 意見の詳細

別紙のとおり

【午前9時 開会】

<p>事務局 (佐々木課長)</p>	<p>本日は御多忙のところ、御参会いただきまして誠にありがとうございます。 また、お忙しい中、本日の議事となっております地方創生関連事業の評価報告書を提出いただきありがとうございました。 早速ですが、ただ今より、平成29年度第2回美里町政策推進・評価委員会を開会いたします。 開会に当たり、徳永会長より御挨拶を頂戴したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>本日は、朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。各委員の皆様方には、短い期間で各担当課との打合せ、地方創生関連事業の評価報告書の取りまとめをいただき、ありがとうございました。次回の会議まで短い期間ではありますが、引き続きよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局 (佐々木課長)</p>	<p>ありがとうございました。それでは、3報告について、事務局より申し上げます。</p>
<p>事務局 (小野補佐)</p>	<p>【個別会議の開催について報告】 平成29年7月7日 個別会 徳永会長 平成29年7月7日 個別会 佐々木委員 平成29年7月13日 個別会 高力副会長 平成29年7月28日 個別会 大塚委員</p>
<p>事務局 (佐々木課長)</p>	<p>それでは、議事に入ります。美里町政策推進・評価委員会条例第6条第1項の規定により、会議の議長は会長が務めることと定められております。 徳永会長、早速ではありますが、議長に就任いただき議事の進行をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>次第に則り、進めてまいります。 まず初めに、1番、議事録の署名人及び会議書記の選任についてですが、書記は事務局をお願いしたいと思います。会議録の署名人については、2人選任いたします。前回の会議が大塚委員ですから、名簿順で高力委員と私ということによろしいでしょうか。</p>
<p>【はいの声】</p>	
<p>会長</p>	<p>それでは、2番、地方創生関連事業の評価についてです。一つひとつ、順番に各委員から概要を報告いただきます。 それでは、地方創生先行型交付金事業の定住促進事業、佐々木委員、お願いします。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>私は、美里町を訪問し、関係する現地を確認し、定住促進について意見をまとめさせていただきました。状況については、報告書に記載のとおり数字だけを見ると人口2万5千人を割っています。基本的に、転入者を増加させていくことで、人口減少を</p>

	<p>抑制する取組です。</p> <p>資料にもありますが、震災後の住宅需要が無くなってきたことで、今後、転入者数はどんどんマイナスになっていくと思うので、取組として転出を抑制する努力をしていくことが必須であると書かせていただきました。</p> <p>実際に美里町へ行って見たところ、分譲団地のある駅東地区は数字上では非常に転入者が多くなっていますが、実際は用地の完売が見えているということで、その対策となる新たな施策を立案していかなければならないと思いました。</p> <p>駅東地区の分譲地は完売してしまいますので、今回、高力委員の担当範囲になっていますが、起業・創業支援施設を整備していますので、転入者施策とそのような取組施策の連携を図り、仕事と定住をセットで考える必要があると思いました。</p> <p>最後に、具体的には美里町で空き家バンクという取組も始めましたが機能していないというのが実状です。現在は、管理するセクションが異なりますが、有効的に機能するよう一体的に管理できるセクションに移し、仕事と定住をセットで考えていく必要があるのではないかと、まとめさせていただきました。以上です。</p>
会長	<p>各委員から御質問、意見等ありますでしょうか。</p> <p>先ほど説明にあった起業支援とセットということを、現時点では、特段、意識していないということでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>はい、まちづくり推進課と産業振興課の2課で別々に取り組んでいるもので、この連携は必要になってくると思います。</p> <p>ほかの地域の移住施策を見ても起業支援とセットで取り組んでいるところが多いです。実際に起業支援施設にも行ってきましたが、やはり、少し淋しいかなと思いました。</p>
会長	<p>それについては、後ほど高力委員から説明があるかと思います。いわゆる、被災者の転入としては一段落したということですね。よろしいでしょうか。</p>
	<p>【はいの声】</p>
会長	<p>それでは次に、地方創生先行型交付金事業の不妊治療費助成事業、大塚委員、お願いします。</p>
大塚委員	<p>このような事業をしているということについて、普及に努めることが大事であると、昨年度、課題を書かせていただいた事業です。この事業は県の実施している「宮城県不妊に悩む方への特定支援事業」の助成額に、更に市町村で独自に上乗せ助成している事業になります。</p> <p>美里町は先進的な取組として事業を開始しましたが、近隣のほかの市町村でも追隨して宮城県の助成事業に上乗せ助成するところが多くなってきました。県内の多くの市町村が取り組んだことが、制度普及につながり相談等数字の上昇につながっているのかと思います。引き続き継続した取組を進めることが大切になります。</p> <p>ここからは相談になりますが、治療費は膨大になるケースもあることから、助成額</p>

	を上げた方が良いのではないかと思います。皆さんは、どう思われますか。
会長	その当たりの金銭的な感覚が良く分かりませんが、何か資料とかありますでしょうか。
大塚委員	宮城県が助成した額に10万円上乗せして助成しています。治療費が100万円を超えるケースもある治療なので、助成額が多い方が良いのが実状かと思いました。
会長	県がいくら出しているか、はっきりしませんが、市町村では一律ということですね。
大塚委員	はい、一律10万円が上限です。
会長	治療費が高額な場合は、増やせるならば増やした方が良いということですね。ただし、町全体の財政状況も関わってきますね。ちなみに、目標件数などはありますか。
大塚委員	20件です。
会長	そうしますと、目標の20件分は助成する用意があったということでしょうか。ただし、あまり金額を上げ過ぎて件数が増えてしまった場合、予算確保が大変になるでしょうから、その辺を考慮しながら加筆するということになりますね。 報告書の書きぶりの修正確認は、どのようにいたしましょうか。
会長	この場での議論の内容についておおむね了解いただき、その上で担当委員が修正し、修正内容については会長一任ということによろしいでしょうか。
	【はいの声】
会長	それでは、修正した評価報告書は、8月10日(木)までに事務局に提出ということによろしいでしょうか。
	【はいの声】
会長	次に、地方創生先行型交付金事業の農産物産地形成促進事業、高力委員、お願いします。
高力委員	こちらの農産物産地形成促進事業は、昨年も評価いたしました。 2年目として、ある程度、品目の良い悪いが見極められるようになったという成果があります。例えば、玉ねぎは、取引先の条件によって非常に効率的で周期性の高いものであると検証され、好事例となっていること。ばれいしょは、国内のニーズが増えてきたと言ったように、品目の見極めができるようになりました。また、農業生産は、経営数値がほとんど把握されていない中で、町が率先して数値を把握し、「見える化」をすることによって、まだ黒字とは言い難く補助金でようやく収支が成り立っていたとしても、黒字でないことが分かる状況であることが成果の一つと考えます。この2点を評価しました。 ただし、農業生産は、天候と自然条件に左右されるリスクがあり、品目が集中すればするほどリスクが高まることもあります。これをどう防いでいくかを品目集中する中で考えていく必要があります、それが強い農業に繋がると意見を付しました。
会長	このことについて、いかがでしょうか。

高力委員	補足してよろしいでしょうか。玉ねぎは、本当に効率的だそうです。市場出荷の場合は、形などの規格があるようですが、現在の取引先は、収穫した物を全てトラックに積んで取引してもらえるので、とても効率が良いそうです。このような取引を前例として、農作業をより効率良くするにはどうしたら良いか、考えていくと良いと思います。
会長	黒字化はできていないのですか。
高力委員	何をもって黒字とみなすかですが、補助金があることによって、数字的には利益があります。ただし、補助金が交付されての利益なので、補助金を無くすと赤字になってしまいます。本来の経営としては補助金なしでの黒字が理想です。補助金は、年々、交付率が下がっていき、いつまでもあるものではありません。経営を「見える化」することで状況を把握していくことが大切になります。
会長	良い方向に向かっているということでしょうか。
高力委員	玉ねぎは良いと思います。ほかのものについても、農家の集約、法人化が難しいですが、資料にもあるとおり法人化の目途が立ってきているので、今後、法人化が進めば、農地を拡大していくことで効率化につながります。これによって、いずれ補助金が無くても黒字を確保できれば理想だと思います。
会長	補助金が出るのは3年ですか。
高力委員	額は減っていきますが、最大5年間あるようです。 産地形成促進事業は3年ですが、違う事業で引き続き2年間補助対象となるものがあるようです。
会長	将来的には、補助金を無くしても、なんとか生産を継続できそうかどうか。
高力委員	はい。
会長	その他、よろしいでしょうか。
	【はいの声】
会長	それでは、2件目、地方創生加速化交付金事業の起業促進拠点事業をお願いします。
高力委員	昨年度、施設を整備したので、今年は、ソフト面を推進していくための仕掛けづくりを行うということです。これは、先ほど佐々木委員もおっしゃっていましたが、仕掛けづくりを進めていますが、実際走行しているかという点、まだ、組立中で評価できるのはこれからになります。 現在は、施設整備というところにたどり着いたばかりなので、今後の展開についてですが、「起業サポートセンター」と位置付けられているので、具体的なサポートは何であるかを町で考えるようにお話ししました結果、場の提供や情報の仲介役など緩やかなものを含めたサポートということでした。現在はシェアオフィスという形ですが、東京でいうカフェのように誰でも入れることが大切かと思います。また、自分

	<p>たちの成果物を置いてみるなど、状況を動かすことが大切になります。</p> <p>今後はとにかく使える場にする必要があります。大切なのは、人が集うにぎわいを作ることです。手厚いサポートの人員配置、マルチな場の創造です。以上です。</p>
会長	要するにシェアオフィスの一つ前の段階が必要ということですね。
高力委員	<p>そうです。レンタルオフィスなら良いですがシェアオフィスとなると、少し使いづらいのではないでしょうか。最初は、いろいろ試せる場を作ることが大切で、一部をレンタルオフィス、一部をシェアオフィスとしても良いですし、町の職員が使うなど、とにかく使っていかなければもったいないと思います。起業サポートと言いますが、仕事をするための場所と考えれば良いのではないのでしょうか。</p>
会長	「起業」という言葉がハードルを高くしているのかもしれないですね。
高力委員	そうですね。とにかく人が集まるようにしなければいけないと思います。
会長	NPOとか、そのようなボランティア団体からトライしてみると良いのではないのでしょうか。
大塚委員	地域福祉で高齢者に関わる事業がありますが、活動の場として是非、使用したい場所ですね。
佐々木委員	<p>ビジネスと考えると、立地環境として厳しいところがあります。</p> <p>元々、理美容学校の施設なので施設全体を含めた空間設計と並行し、コンセプト設計をしないといけないですね。モノづくりの場所にビジネスゾーンを作ったため、やはり、違和感が出てしまうと感じました。</p>
高力委員	施設のネーミングは「k i r i b i」と凝っています。平穩無事にビジネスができるようにとの思いから名付けられていますが、パンフレットとかに由来が記載されていないので、ピンとこないですね。
会長	今の若い人が、切り火と聞いても何のことか、分らないですよ。
高力委員	ネーミングは凝っていますが、名前を聞いて起業の施設又はどのような施設かイメージしにくいかもしれません。
会長	評価はこれからだとして、学生を関わらせるというのはいかがですか。
佐々木委員	できると思います。建物的には適度に古いですし、高さも確保されているので、やりたがるかもしれません。
会長	稼働率が低いということですが。
高力委員	ほとんど稼働していないようですが、今度、セミナーを開催するそうです。
会長	シェアオフィスという部分は残して、もう少し、大胆に取り組んでいくことが大切ですね。
高力委員	是非、そうしていただきたいです。
会長	事務局、何かありますか。
事務局（小	加速化交付金は、平成32年度の将来に対してKPIを設定しています。本来であ

野補佐)	<p>れば入居率30パーセント、移住2人などを掲げています。</p> <p>初年度から移住に繋がるものではなく、どこまでもチャレンジ目標として捉えれば、結果が出ていないのはしょうがないとしても、今後、どのような取組が大切か、委員皆様から御意見をいただければと思います。</p>
高力委員	<p>交付金で掲げたKPI達成までは、なかなか難しいかと思います。</p> <p>施設としての利用頻度というか、起業支援や施設活用を考えると何人ぐらい施設を利用しているのか、ビジネスの立ち上がりが見込める件数や相談件数など、もう少し活動に近いもの、その先にある目標よりも、まず、活動実績を把握することが町としては、やりやすいのではないのでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>成果だけ拾ってしまうと、厳しい数字にしかならないと思うので、その経過の数字を拾っていかないと、施設の活用を加速化させるのは難しいのではないのでしょうか。</p>
高力委員	<p>例えば、移住交流を想定した場合、セミナーなどへのほかの県や市町村からの参加者数の把握、ほかの県や市町村との取組を比較するだけでも十分観測できると思います。町民を対象とするのであれば、先ほど、大塚委員がお話しされたように、高齢者も含めてどれくらいの町民の人が利用したか、町民の利用者数とほかの県からの利用者数、2つをプロセス評価していった方が良いと思います。</p> <p>ただ、そのためには、ほかの県から人が集まるようなセミナーなどの仕掛けが必要になりますね。人が集まることで、KPIの達成につながると思います。にぎわいの創出から次の一手が出てくると思うので、何かを軸に仕掛けていくことが大切だと思います。そのプロセスをKPIに反映させた方が、佐々木委員がおっしゃったように結果だけ見るよりも、すごくリアルだと思います。</p>
佐々木委員	<p>石巻市や大崎市と差別化していくことも必要ですね。ほかの施設は、アドバイザーとかも配置され、機能として充実しています。</p>
高力委員	<p>私は、石巻や大崎について良く分かりませんが、佐々木委員が今おっしゃったように、何か差がないといけませんね。何かに特化していくことが必要だと思います。</p>
会長	<p>外から人を呼ぶのであれば、そういうものは必要かもしれませんね。あるいは、町民を対象にするのであれば、町民自身にどのようなニーズがあるかを情報提供していかなければなりません。やみくもに「起業しませんか」という形では難しいかもしれません。</p>
佐々木委員	<p>コールセンターは別として、何か今あるものとセットでコンセプトを作る。例えば、周りが田んぼなので、郷土資料館については、農具の展示だけではなく作業ができるアクティブなものを取り入れていった方が良いと思います。</p>
大塚委員	<p>今、高齢者の地域包括ケアシステムということで、住民参加型のいろいろなNPOのボランティア団体が活動していますから、そういう活動拠点が必要になっていると思います。手軽に利用できる施設があると良いと思います。</p>
会長	<p>課題はたくさんあることが分かりましたが、評価報告書としてはいかがいたしま</p>

	しょうか。
高力委員	後は、その施設のポジションとして、施設を提供するのか、何か運営して利益を出していくのか。そのスタンスで大きく違ってくると思うので、町外からなのか町内なのか、収益を出すのか出さないのか、両方だとは思いますが、どちらに重心を置くのかコンセプトを考えて、更にそこから石巻市や大崎市と差別化が図られると良いですね。その差があって、更に町のニーズと合えば完璧だと思います。そういうものを理想として模索していければ良いのではないのでしょうか。
佐々木委員	2013年ぐらいに、石巻に県の起業支援施設を作りましたが、今は、一定のニーズを得て場所も変えてやっています。当時は、相談に来て起業をする際に、その後ろには補助金がありました。しかし、美里町には、それが無いですね。
高力委員	起業といっても年に、1人から2人が思いつくつかつかないかではないのでしょうか。今、実際にビジネスをやっている人たちが困った時に、相談に来るくらいの施設の方が良いのではないかと思います。
佐々木委員	相談に来た時に、ただ「頑張ってください」というだけでは意味がないので、提供できるものが無いのであれば、コンセプトを変える必要があると思います。
高力委員	何ができるのか、というのは大切かもしれませんね。先立つものとして、やはりお金は必要ですから、クラウドファンディングも一つの方法であると思います。岩手県の紫波町にあるオガールに行ってきましたが、そこでしか買えない物を売っているお店があり、クラウドファンディングで資金調達したそうです。
佐々木委員	やり方次第で、面白い取組になると思います。
会長	そこに集まることによって相乗効果というか、そういうところをうまく作っていかねばいけないと思うのですが、今の状況を見るとやりたい人がそれぞれやっているという状況のようです。今回、評価報告書を出しますが、少し考えていきましょう。 評価報告書ですが、今、お話しがあった内容がおおむね読み取れるよう優しく書いてあると思います。根本的な見直しの検討も必要かもしれませんが、これについてはよろしいでしょうか。報告書の修正は会長一任とし、8月10日(木)までに事務局に提出願います。
会長	次回の会議開催について、事務局から願います。
事務局(小野補佐)	前回の会議で日程は決まっておりましたが、次回の会議は、9月25日午後1時開始予定となっておりますので、改めて日程を確認していただくのと、宮城大学での開催をお願いしたいと思いますので会議室の確保をよろしく願います。次回の議事は施策の評価となります。施策担当課と日程を調整していただき、個別会の開催をお願いいたします。また、9月22日までに報告書を事務局に提出願います。
会長	個別会は、別途調整ということで、各委員よろしく願います。
会長	次回の全体会、それをもって答申となります。会議の開始時間は、今日の議事の進

	み具合も考慮し、1時からではなく12時50分、少し早めに開始としてはどうでしょうか。
	【はいの声】
会長	それでは、次回の会議は、平成29年9月25日12時50分からとします。最後に、その他として何かありますか。
	【無しの声】
会長	それでは、たいへんお疲れさまでございました。本日、予定した議事の一切を終了いたします。それでは、事務局へ進行をお戻しいたします。
事務局 (佐々木課長)	<p>ありがとうございました。次回の会議は、個別会となります。</p> <p>本日の会議については、宮城大学の御厚意により構内で開催させていただきましたので、費用弁償は発生しませんが、報酬については御登録いただいている銀行口座に8月中に振り込みいたします。また、報告の中でお話しさせていただきました個別会の報酬及び費用弁償についても併せて振り込みいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回美里町政策推進・評価委員会を終了いたします。</p>

【午前10時20分閉会】

上記会議内容に相違ないことを認め、ここに署名する。

平成29年 月 日

会議録署名委員

会議録署名委員